
憑依者ユーノの物語

妄想人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

憑依者ユーノの物語

【Nコード】

N2841Z

【作者名】

妄想人

【あらすじ】

この物語はもしユーノが憑依者だったらどうなるのか？そんな物語。

―ある決まった物語に俺が介入する時、その物語は変わりだす。

／／／／／／／／／／／

はつきり言って作者の妄想そして文才ないです。それでもよければどうぞ。

目次（前書き）

よければお願いします。

目次

俺は何故か何も無い白い空間にいる。前、下、右、左、永遠に続いている。訳がわからないから考えようとしたら突然

「やっと目覚めましたね」っと目の前に女が現れた！

「あんたが、俺をここに？」

いきなり現れた事はとりあえずスルーして今一番の疑問を聞いたなら「その通りです！」

やたら自信ありがちに答えて来た。

「……………変質者？」

「違いますよ！？何故いきなりそうなるんですか！」

「こんな意味わかんねえ空間連れ込んで位だし、それを自信ありがちに言われるとな。」

軽くふざけた感じで、バカかという目で目の前にいる女に言った。た。

「ああー！絶対今かなり、怪しい人だと思いましたね！」なぐんて言ってきやがた。それ以外なにかあんだよ全く。

「じゃあ、あんたは何者なんだよ？」

事と次第によるならシバくぞつと俺は心の中で毒をはいていた。

「聞いて驚きなさい！！私は、神 ですよ！」

…………俺はその答えを聞いて頭を抱えだした。

「フッフッフツ、驚いているようですね？」

確かに驚いている。その理由は

「誰か助けて下さい！目の前に頭を相当ケガをしている女性がいます！！」

彼女の頭はどうなっているかについて。

「なっ！こつち真面目に答えているのに、何て事言うんですか！」

「やかましい！完全に痛い人発言にしか聞こえないんだよ！」

「だから、本当なんですよ！」

「もういいから、病院行け！」

数十分その話は続いた。

「俺が死んだ？」

からかうのをやめ真面目に移ったと思ったらいきなり死亡宣告をされた。

「はい、そうなんですけどこちらの不注意であなたを間違えて死なせてしまったんです。」

申し訳なさそうに言ってきた。

「ふっん、そうなんだ。」

俺は興味がないように答えた。

「あの、怒らないんですか？」

「人はいつかは死ぬ。それが遅かれ早かれ変わらないさ。」

「変わってますね。」

「ほつとけ。」

「話が変わるのですが、あなたにはもう一度人生やり直してもらいます。」

「何故に？」

「間違いで死んでしまった人にはそうなるようになっていくんです。」

「それはどうかとおもつぞ？」

そして俺はある事にきずいたそれは

「俺の体ないんだけど？」

そう俺は事故で死んでしまい原型を留めていない体になってしまっている。

「大丈夫です。あなたが好きなキャラになることができます。それにチート能力も貰えますよ！」

……月並みの展開です。そして俺の中で答えも決まってきた。

「リリカルなのはのユーノで、能力はいろんなキャラと修行しながら貰っていく。」

「えっ何ですか！普通カツコイい主人公でしょう！それに何で修行なんかやるんですか、チート能力貰って無双すればいいじゃないですか！？」

質問多い神だなく理由話すしかないか。

「まず何故ユーノかというところ」と
「というところ？」

興味深々と聞いてきて答えた。

「ニートになれるからだ!!」

「はあ?!」

「ストーリーは知らんが将来本の整理だけでやっていける。」

「格好悪!てか原作知らないんですか!!」

「ああ、全く知らん!」

「そんなので大丈夫何ですか?」

そんな装備で大丈夫かのごとく聞いてくる。

「問題ないぜ。」

「はあ、わかりました。で、修行の理由は? (どうせくだらない理由な気がしますけどね)」

「その人達の覚悟、誇りを知り俺がそれを背負っていくができるかだ。」

急に目の前の男の雰囲気が変わった。さっきまでのふざけた要素がまるで嘘かのようにまた男は語りだした。

「ただ能力を貰うだけじゃ意味がない。それを使う覚悟がなければ、その力に吞まれ破滅を生むだけだ」

まだ男は語る。

「なら俺はその使う意味をその人達の元で、修行をし誇りを持って受け継いでいきたいんだ。」

私は唾然としてしまった。理由がスゴいとかそう言う問題じゃない。その存在感のすごさに思わず魅入ってしまった。

「なぐんでな。どうだった俺の演技凄かったろ？本当はただキャラと話しがら貰えれいだけさ。」

また雰囲気に戻った。本当に訳のわからない変わった人ですね。

「んじゃ、体頂戴。後、修行の人達は　でよろしく。」

「チートの塊ですね。まあいいですけどね。ではすぐに修行の場所にワープさせるので出たい時は言ってお下さい。」

「了解。さて行きますか！」

どうせなら楽しい物語りにしていきたいな。まっ作者次第か？

ー開始直後にメタ発言は止めて下さいー

おっと注意されちゃったぜ。まあ、俺も頑張ってくとしますか！

目次（後書き）

反省会

「全くこんな調子で大丈夫なのか。続けていけるか不安だぜ。」

「本当に申し訳ない。」

「まあ、それは置いといて次回タイトルは【やっと始まった物語】だ。よろしく。」

「流すな！そして勝手に決めるな！」

「またいつか。」

「聞けよボケ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2841z/>

憑依者ユーノの物語

2011年12月10日01時11分発行